

# フリーペーパーの発行を通じて島おこしに貢献

活動地域（山口県周防大島町）

## 男性のプロフィール

氏名：大野 圭司さん

年齢層：若年層（20～30 歳代）

活動概要：約 8 年前、故郷である周防大島町へ Uターンし、フリーペーパーの発行や地域の学校などとの連携を通じて、島おこしに取り組んでいる。

## 活動開始のきっかけ

### Uターンして、若者の島離れに危機感

26 歳のとき、東京から周防大島に戻ってきたときに、もともと 13 人いた島の同級生が、自分を含め 4 人しかいなかったことに問題意識を感じ、「島おこしにつながることをしなければ」という思いを持ちました。しかし、島おこしといっても何をしていたかわからず、大学時代と東京の職場でのデザイン経験を活かし、今、自分にできることは何かを模索しました。また当時、「島で事業を起こすこと」が自分にとっての夢であり、事業を起こすなら、実際に起業している人に話を聞き、学ぶのが効率的であると考えていました。

そこで、自分のデザイン経験と、夢である起業を組み合わせ、周防大島で自営業や起業をしている若者を集めた冊子を自主制作し、無料配布するフリーペーパー「島スタイル」を発行することを通じて、自分にできる島おこしをやってみようとの思いに至ったのです。

## 活動の内容

### 起業家を応援するフリーペーパー「島スタイル」を定期的に発行

コンセプト設定、企画、取材、編集・デザインまでを全て自分一人で担当しています。また、発行するための十分な資金があるわけではないため、印刷費は、広告費でまかなうこととしました。このように、私の島おこしは、「一人で始められる」、「お小遣いで始められる」ところが活動のポイントであると思っています。

「島スタイル」の内容面で工夫したのは、そもそもの発行の目的が、起業のノウハウを自分自身が学ぶことと、起業している島民を元気づけることなので、自営業や起業家の創業の物語や思いなどのストーリー性を重視した内容としたことです。多くの島民にそのストーリーに共感してもらい、掲載したお店に足を運んでもらいたいというねらいもありました。

#### ◇「島スタイル」の概要◇

創刊：平成 17 年 2 月

仕様：A5・4 ページ

発行部数：5,000 部

発行頻度：年 4 回

配布場所：郵便局、観光協会、道の駅、銀行、薬局、ホテルなど島内 50 箇所



## 同世代や島民からの励ましの声が嬉しい

「島スタイル」の発行から6年が経過しましたが、島民から待ち望まれていることを実感しています。同世代からは「島スタイル、いいね」と言われたり、地域のおじさんやおばさんからは「がんばってね」と声をかけられます。こうした声を聞くと、本当に発行して良かったなと思います。

また、自分が活動をすることで、島外の人々に、「周防大島の元気なイメージ」や「周防大島のブランドイメージ」を発信できているのではないかと思います。

### 周囲との関わり

#### 島内の起業家、起業家予備軍、島民との関わりを大切に

「島スタイル」の誌面の中での主役は、自営業者と起業家です。取材対象者との関わりをととても大切にしています。密なコミュニケーションを通じて、「島で働くということ」についての考えや想いなどを具体的に聞き取り、それを誌面に反映し、島民に届けるようにしています。

また、起業家予備軍や起業家を応援する島民たちについても、広告料をとらずに「島スタイル」に掲載しています。これは誌面を通じて、起業家予備軍の成長を手助けできればという思いから行っています。

### 直面した課題と解決方法

#### 取材対象者がいないなら、島内で起業する人を増やそう

「島スタイル」を継続的に発行する上での課題は、人口が2万人弱と少なく、大きな島ではないため、取材対象者が限られてしまうことです。

解決策として考えたのが、起業する人を増やす事業を始めることでした。起業する人が増えれば、取材対象者も自然と増えます。このため、周防大島で起業する人が学べる学校を企画し、地元の大島商船高等専門学校に提案しました。それが文部科学省に認可され、周防大島の地域再生を目的に起業家を養成する学校プロジェクト「島スクエア」が実現しました。私は、この事業に大島商船高等専門学校のコーディネーターとして関わっています。起業家養成基礎コース、体験型観光起業コース、商品開発起業コースなどがあります。「島スクエア」の修了生のうち、既に30人程度が島内で起業しており、こうした方々を「島スタイル」の新たな取材対象者としていきたいと考えています。

### これからの展望

#### 多忙のため休刊中の「島スタイル」を復刊。今後も起業家を応援し続ける

最近では、「島スタイル」以外に、「島スクエア」への関わりのほか、県の男女共同参画審議会委員、県主催の男女共同参画推進事業によるセミナーのパネラーなど、活動の幅が広がってきており、「島スタイル」発行のための時間を確保することが難しくなってきました。このため、現在、「島スタイル」は休刊中です。「島スタイル」を復刊させるためには、新たな人材を確保することが必要です。そこで、今年度、東京の大学4年生の学生（男性）を半年間、インターンシップで受け入れることが決まっているので、彼に「島スタイル」の発行を担ってもらおう予定でいます。今後も「島スタイル」を継続的に発行し、周防大島で新たなコトを起こす島民、出身者、島ファンを応援していきたいと思ひます。

私が起業家を応援するのは、「島に子どもを増やしたい」という思いがあるからです。子どもを増やすには、親となる大人を島に呼んでくる必要があります。大人が働くための雇用を生み出すことは難しいですが、起業家を増やすことなら私にもできます。だから、起業家の応援を通じて、島に起業家、そして、子どもたちを増やし、島のさらなる活性化につなげていきたいと思ひます。